

# 流山とりだより

流山野鳥同好会

No.149

2024年10月10日



●ウミネコ  
力強く砂地を蹴って  
向かい風に走り出せ！

2024.09.15 三番瀬  
撮影：森岩 好明

# 観察会から

有志による三番瀬観察会（シギ・チドリを見よう！）

2024年9月15日

相馬利雄

（写真：M = 森岩好明 H = 東原聡 S = 筆者）

参加された皆さん、お疲れさまでした。

シギ、チドリは体型や羽色など微妙な違いなので難しいですね。同種にしても夏羽（春の渡り）・冬羽（秋の渡り）、そして幼鳥・成鳥など個体によって様々です。もう頭の中は猛暑ならぬ脳暑・・・？

さて貴重な熱い体験でしたので頭を冷やし、復習してインプットしましょう。

## ①ウミネコとオオセグロカモメの違いは？

「ものさし鳥」としてスズメ（14 cm）、ムクドリ（24 cm）、キジバト（33 cm）、ハシブトガラス（56 cm）は分かりますね。「カモメのものさし鳥」は、ユリカモメ（小）、ウミネコ（中）、オオセグロカモメ（大）です。先ず大きさが基準になります。そして、クチバシ、足色、羽色ですかね。一覧表にまとめてみました。

（写真：M）



ユリカモメ



ウミネコ



オオセグロカモメ（写真：S）

	ユリカモメ	ウミネコ	オオセグロカモメ
渡り	冬鳥	留鳥／漂鳥	留鳥／漂鳥
大きさ	小型 40 cm	中型 45 cm	大型 61 cm
クチバシ	赤	黄色 先から赤黒黄色	黄色 下クチバシに赤点
足色	赤	黄色	ピンク
羽色	背中は灰色	背中は黒い	背中は黒い
特徴	東京都の鳥	鳴き声 ミャーミャー	若鳥は茶系。 成鳥まで3～4年かかる

②ダイゼンはモノクロ七変化

「干潟のダイゼン」と「水田のムナグロ」は似たもの同士。一緒にチェックしちゃいましょう。

(写真：M)



ダイゼン



ムナグロ

	ダイゼン	ムナグロ
渡り	旅鳥／冬鳥	旅鳥／冬鳥
大きさ	29 cm	24 cm
クチバシ	黒	黒
足色	黒	黒
羽色	全体が灰色系。モノトーンなイメージ。 幼鳥、成鳥など個体差が多彩。 夏羽は顔から腹が黒い。	上面は黄褐色と黒褐色のまだら。 幼鳥、成鳥など個体差が多彩。 夏羽の顔から胸・腹が黒い。ムナグロの由縁。
特徴	干潟に多く内陸にはあまり入らない。 流山では観察されていない。	春の渡りでは内陸で見られる。 5月連休時、南流山木地区水田で30羽位の群れ。 かつては新川耕地でも見られた。現在は未確認。

③ミユビシギ VS トウネン 小さいのはどっち？

この2種、可愛さ売りでは横綱級。ともに引きません！

(写真：M)



ミユビシギ



トウネン

	ミユビシギ	トウネン
渡り	旅鳥／冬鳥	旅鳥／冬鳥
大きさ	19 cm	15 cm
クチバシ	黒	黒
足色	黒	黒
羽色	冬羽は上面は薄灰色、下面は白っぽい。 指が3本だからミユビだって。 チョコチョコ早くて見えないけど。	冬羽は頭から背、翼の上面は灰褐色、腹は白い。 夏羽は頭から胸、上面が赤褐色。 ミユビシギに似るが、ずっと小さい。
特徴	海岸線の砂浜で波に追われながらの餌取りは、超可愛い。	小さいので当年（とうねん）生まれと思われて、トウネン。群れ性が強く塊り飛行は圧巻。

④キアシシギはスタンダード！

アシ色なら他に、アオアシシギ、アカアシシギもいます。オバシギって何もの？ (写真：M)



キアシシギ



オバシギ

	キアシシギ	オバシギ
渡り	旅鳥	旅鳥
大きさ	25 cm	28 cm
クチバシ	黒	黒
足色	黄色	黄褐色
羽色	冬羽では、全体に灰褐色。腹は白い。 夏羽では、胸から脇にかけて波状の横斑がある。 上面は灰褐色。	冬羽では、上面は灰色っぽい。 夏羽では、上面に赤褐色の斑があります。 腹など下面は白色で、胸から腹には黒斑が多数で ます。
特徴	岩場、干潟、水田など幅広い環境に適応している。 自慢の横長、短足。	ゆっくりした動きから「姥」(おば)シギ？ 横長の体形で足は短め。クチバシは真っすぐ。

⑤オオソリハシシギは、1羽でも存在感あり！

一発で脳裏に焼きつくクチバシに、見とれてしまいました。

(写真：M)

	オオソリハシシギ
渡り	旅鳥
大きさ	40cm
クチバシ	黒、元部は肉色。
足色	黒色
羽色	冬羽は、上面は一樣な灰褐色。 ♂夏羽では頭部から下面にかけて赤褐色。 ♀夏羽は赤褐色味が少ない。
特徴	長いクチバシが上に反り上がっている。干潟、砂 浜、河口で普通に見られる。



オオソリハシシギ

以上、今回見られた種をまとめてみましたが、比較すると整理しやすくなりますね。「シギチは難しい」を攻略していきましょう。少しずつ分かってくると楽しさ倍増ですよ。

## <参加者の皆さんから>

- 本日は久しぶりの鳥の会で楽しみにしていました。風が強く吹いていましたが、カモメやシギ類が見れて良かったです。手持ちの鳥図鑑で下調べをしておくのと更に楽しめたかなと思いました。会員有志の会の機会がありましたら、どんどん参加したいと思います。下見や準備等いつもありがとうございます。(齊藤久寿さん、浩美さん)
- シギ・チドリは見分けが難しく目が慣れるまではみんな同じに見えましたが、幹部の方のスコopを見せていただきながら、図鑑を見て見比べていくうちに少しずつ違いがわかる様になりました。林の中と違って風が強く日差しがまぶしいので、観察も難しいと感じました。葛西に続いて2回目の干潟の観察、少しずつ海鳥も覚えていきたいと思いました。(鈴木淑子さん)
- シギの区別がつきづらく「これだ!」という認識が出来ず帰ってから復習します。はじめての三番瀬でしたし、みなさんとも久しぶりにお会い出来たので楽しい時間を過ごすことが出来ました。(服部洋之さん)
- ミユビシギやダイゼンがチョコチョコ歩く姿がとてもかわいかったです。普段見られない鳥が観察できて面白かったです。今回は風が強かったのでまた落ち着いているときに見に行きたいです。(今泉好美さん、毅さん)
- 海辺にいる鳥は全てウミネコだと思っていたので、こんなに多くの鳥がいることに驚きました。ウミネコとオオセグロカモメの違いを学ぶことができ今後注意深く観察してみたいと思います!!(勝又奈々子さん)
- 江戸川台駅で待ち合せて、遠足気分に参加。鳥の見分けは前回の葛西臨海公園よりも難しかったけれど、ビーチサンダルに履き替えて干潟に入って観察する非日常感がとても楽しく気持ちが開放されて、うれしくわくわくしました。次回が楽しみです。(太田桐門史子さん)
- 昨年9月の例会「葛西臨海公園」では、同じ時期で近隣だったにも関わらずシギは2~3羽しかいなかったのですが、本日はあんなに群れになったシギを初めて観察できて非常に有意義でした。ありがとうございました。(東原 聡さん)
- 久しぶりに大きな広い空をみました。(大渡 修さん)
- 海鳥の区別は難しく勉強不足を感じた。特にシギは動きが早く写真撮影が難しかった。(宮原 誠さん)
- 風と日射しが強く早目に終わらせました。キアシシギ、オバシギの違い、オオセグロカモメとウミネコの違いを教えていただきました。オオソリハシギは分かりやすかったです。16種と少なかったですが、普段見られない鳥をみられて良かったです(無記名さん)
- シギたちが風に飛ばされそうになりながら採餌している姿を見ていると、厳しい環境下で逞しく生きる姿に感動し、「私も負けられないな」との思いにさせられました。皆さん、お疲れさまでした。(菅野文夫さん)



干潟で (写真:H)



堤防で (写真:H)

## ◆観察した鳥

カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ダイゼン、オオソリハシシギ、  
キアシシギ、オバシギ、ミユビシギ、トウネン、ウミネコ、  
オオセグロカモメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、  
ハシブトガラス

以上 16 種

## ◆参加者

今泉 毅、今泉好美、大渡 修、太田桐門史子、落合 聡、勝又奈々子、  
菊池和子、斉藤久寿、斉藤浩美、菅野文夫、鈴木淑子、相馬利雄、服部洋之、  
東原 聡、宮原 誠、森岩好明

以上 会員 16 人

### \* 編集部から \*

今回は「秋の渡り」の観察でした。秋のシギ・チドリたちは夏羽から冬羽に換羽していきま  
す。色味のある羽から地味色へ。また今年生まれの幼鳥も混じり、それぞれ地味色対決・・・。

そうであるなら、「春の渡り」観察した方が、夏羽に換羽していく色味対決を観察すること  
ができます。4～5月ごろの三番瀬は面白そうですね。

であるなら、春に三番瀬を入れると9月は何処にするか？ カモや冬鳥はまだ来ていないし。  
谷津干潟を復活させるか？ 葛西臨海公園は？ 三番瀬をリベンジするか？ 急に秋めいてき  
ましたが、頭の中の「脳暑」はまだまだ冷えそうにありません。



観察デッキにて (写真：H)

## ◆興味深々、ベテランさんの愛機を一気公開！！

幹事さんをはじめとするベテランの方々がお使いになっている、スコープや双眼鏡を紹介してくれる記事があったりすると参考になるかな？・・・のリクエストにベテランさんが全面協力です。

---

### ●森田洋一さん●

- ・双眼鏡①：昭和59年に亡くなった「父の双眼鏡」を使っています。メーカー不明です。lipper か vipper か・・・。プロ野球観戦で使っていたような・・・。
- ・双眼鏡②：貸し出し用機種は、2007年に購入。低価格のもので、CAMOと書いてあります。

### ●菊池和子さん●

- ・双眼鏡：私が使っているのは、KOWA 8x25DCF
  - ①使用年数：20年位使用。
  - ②使用理由：軽く使いやすい。見やすい。
- コメント：買う時は試し見ができる店で手にとり遠くを見て自分にあうものを選んでください。

### ●若林幹夫さん●

- ・双眼鏡：スワロフスキー EL8.5 × 10
  - ①使用年数：20年位使用。
- ・スコープ：Kowa TS-614
  - ①使用年数：25年位使用。

### ●菅野文夫さん●

- ・スコープ：Kowa Spotting Scopes TSN-550
  - ①使用年数：6年
  - ②使用理由：本機は15～45倍ズームですが、所持している10倍の双眼鏡では遠くて確認できない距離の野鳥を観察したくて購入しました。本機を選んだ理由は、カメラでの撮影がメインのためなるべく軽量でコンパクトなスコープにしたかったことによります。たった800gなので、カメラを携帯していても負担なく持ち運べます。
- コメント：じっとしているフクロウ類や囀っている小鳥、または警戒心が強く近寄れない野鳥を見るのにスコープは最適です。ただし、口径が55mmと小さいため大口径レンズと比べると迫力不足は否めません。スコープをメインに観察をしたい場合は、88mmや77mmの購入をお勧めします。

### ●大渡 修さん●

- ・スコープ：NIKON FIELDSCOPE ED D=60 (対物レンズ径) 接眼レンズ 20倍、30倍
  - ①使用年数：35年以上かな？
  - ②使用理由：信頼できるメーカーである。焦点を合わせるリングが大きくて合わせやすい。EDは見え味が綺麗。そもそも当時は選べる種類も多くはなかった。
- ・双眼鏡①：NIKON 8 × 30 ポロ型
  - ①使用年数：35年以上かな？
  - ②使用理由：現在のものは2台目。信頼できるメーカーである。野鳥観察の定番機種。手持ちでブレずに見えるのは8倍程度が良いと思う。当時性能の良いダハ型は高価だったような。
- ・双眼鏡②：NIKON 10 × 42 ポロ型
  - ①使用年数：15年位かな？

②使用理由：当時 NIKON に勤めていた方が「明るくて見やすいのができたので」と紹介してくださった。鳥があまり動かないような干潟や池の水鳥を見る時に良く使います。明るくて良く見える。が、手持ちではブレやすいので、良く三脚を付けたフィールドスコープの上に乗せて使っている。

・双眼鏡③：NIKON 8×20 ダハ型

①使用年数：2年（メルカリで中古を購入 3,500円）

②使用理由：サイクリングや犬の散歩など重たいものは持って行きたくない時に使います。

### ●相馬利雄さん●

・スコープ：Kowa PROMINAR TSN-4 FLOURITE LENS

D=77（対物レンズ径）

接眼レンズ 20～60倍／30倍

（現在この機種は新機種になっています）

①使用年数：32年（同好会設立時に購入）

②使用理由：当時は一番良いスコープで気張って買いました。

コメント：堅牢で高性能な機種に満足。頼もしい相棒で一生ものです。ただ大きくて重いので私の体力しだいですが。今は軽くて高性能な機種がありますので選択肢は様々です。



NIKON 8×30

・双眼鏡①：NIKON 8×30 ポロ型

①使用年数：32年（同好会設立時に購入）

②使用理由：当時は使用している人が多くて憧れの1台でした。

コメント：近々まで現役使用。分身的な愛機ですが、今年若い機種に替えました。

・双眼鏡②：NIKON 10×42 ポロ型（大渡さんと同型。製造番号8番）

①使用年数：実質の使用は10年くらい

②使用理由：つくばTXの開発当初の「オオタカ生態調査」で使用。1993年～10年程、オオタカの繁殖期にスコープとこの機種で定点調査に参加しました。

コメント：定点観察などには向いています。歩きながらの観察会には8×30を使用していました。

・双眼鏡③：NIKON MONARCH HG 10×30

①使用年数：1年位

②使用理由：高性能で軽くてコンパクトな機種。見え味は申し分ないです。これまで8倍を使用していたので、10倍の使い始めは酔うような感じでした。今は慣れて手放せない1台になりました。

コメント：標準機として、NIKON MONARCH M7 8×30 程度を基準にし、自分の好みに合った機種を選択していけば良いかなと思います。

---

以上、ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

光学機器は高額ですから購入まで迷いますよね。会員さんの参考にしていただければ嬉しい限りです。興味がありましたら観察会で見させていただくと良いかもしれません。また11月2～3日の「我孫子ジャパンボードフェスティバル」では光学機メーカーが一同に揃いますので、試し見るには絶好のチャンスです。一見の価値あり！！

## 【会員からのとりだより】

### ●イソヒヨドリ

菊池和子

名前から、海岸沿いにいるヒヨドリに似た鳥と思っていました。

2008年に仁右衛門島に渡る舟付場で見ました。

次はおおたかの森住宅展示場の歩道です。それから流山おおたかの森駅周辺で見かけるようになりました。

ベルク付近、カスミ付近、ファストレジデンス、ほんだ歯科、BELITAS 流山おおたかの森、ライフガーデン 駐車場、湘南ゼミナール、2023年4月16日の観察会ではカスミ近くのTX 高架にいました。

運の良い人は自宅のベランダにいたそうです。もし見つけても、そっとしておいてください。巣を作り、ヒナが生まれるかもしれません。流山育ちのイソヒヨドリがたくさん巣立つよう祈ってます。



イソヒヨドリ♂ (写真：HPより)

\*編集部から：イソヒヨドリは雄は頭から背中青色が美しい鳥です。菊池さんが書かれているように海岸の岩場などで見かけることが多いので「イソヒヨドリ」という名がつけられたようですが、高層のビルやマンションが立ち並ぶ環境もイソヒヨドリにとっては岩場に見えるのでしょうか。

---

## 【私のお薦め YouTube】

### ●私がよく見ている YouTube です。

鈴木淑子

とにかく画像がきれいで、余計なおしゃべりもなく、ひたすら鳥の姿と鳴き声を流してくれます。初心者の私にはとても参考になり、実際にこれを見ていくつかの鳥の鳴き声や生態を覚えました。時間も15分前後のものが多く、それほど長くないので寝る前のヒーリングタイムにもぴったりです。

ベテランの会員さんには少し物足りないかもしれませんが、入門編としてとても良いのでは、と思ってお知らせしました。

### 「解説！鳥の鳴き声図鑑」

[www.youtube.com/@torinonakigoe](http://www.youtube.com/@torinonakigoe)

\*編集部から：ありがとうございました。とても参考になります。YouTubeでは思いもよらぬ画像をみることが出来ますね。昔では考えられないことです。上手に活用して知識を広げていきましょう。

## ◆鳥だより——フィールドノート拝見

観察できる鳥が少なくなる流山の夏ですが、それに加えて今年の記録的な猛暑の夏でした。鳥を見に行く足も途絶えがちというわけで、今回は少なめの鳥だよりです。そろそろ冬鳥も入ってきたので、これからの季節に期待しましょう。

### 新川耕地、江戸川地区

- 7月11日 …アマサギ (2) 相馬利雄  
若林幹夫
- 8月24日 …コムクドリ (群れ)、アオサギ、ダイサギ、コサギ 若林幹夫
- 9月1日 …チョウゲンボウ (2) 若林幹夫
- 9月7日 …コサギ、ダイサギ、アオサギ、カワウ、カルガモ、イソヒヨドリ (若鳥)、ムクドリ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ハシボソガラス、ハシボソガラス 若林幹夫
- 9月23日 …ケリ (3、富士眺望の池でハクセキレイに激しくモビングされ、池の中の島の間を鳴きながら飛んで行き来していた)、カルガモ、コガモ (1)、ハクセキレイ、カワウ、ダイサギ、コサギ、モズ (かわいい小鳥の音がして、何かと見るとモズでした。鳴き真似していたんですね) 若林幹夫

### 市野谷・おおたかの森地区

- 7月11日 …ヨシゴイ (1) 相馬利雄
- 8月14日 …イソヒヨドリ (1) 相馬利雄

### 木地区

- 9月21日 …コガモ (2) 相馬利雄
- 9月21日 …カイツブリ (4回目の抱卵) 相馬利雄

### 宮園地区

- 8月8日 …ゴイサギ (成鳥) 相馬利雄
- 9月21日 …ゴイサギ (成鳥2、幼鳥2.)、コサギ (2) 相馬利雄

### 市野谷・おおたかの森地区



ヨシゴイ 2024.07.11 相馬

### 木地区



コガモ 2024.09.21 相馬



カイツブリ 2024.09.21 相馬

### 宮園地区



ゴイサギ (成鳥) 2024.08.08 相馬



ゴイサギ (幼鳥) 2024.09.21 相馬

### 野々下地区



コチドリ (幼鳥) 2024.07.11 相馬

### 野々下地区

7月11日…コチドリ（幼鳥）生まれも育ちも野々下です。今年はこの1羽のみでした。

9月21日…モズ（鳴き声）夏場はいませんでしたが戻ってきました。（水辺公園）

9月21日…カイツブリ（♂・♀・幼1）（古間木調整池）

相馬利雄

相馬利雄

相馬利雄

### 江戸川台地区

7月13日…ツミ、オナガ

7月16日…ツミ、オナガ

9月14日…ツミ

森岩好明

森岩好明

鈴木淑子

### 富士見台・中野久木地区

9月2日…サシバ

若林幹夫

### 利根運河地区

8月14日…イソシギ（1）（におどり公園水門）

8月31日…ゴイサギ（若鳥）、アオサギ、ダイサギ

9月12日…イソシギ（1）（におどり公園水門）

相馬利雄

若林幹夫

相馬利雄

### 理窓公園

7月11日…アライグマ（1）

相馬利雄

### ★「鳥だより」をお寄せください。

通勤、買い物途中などで見かけた鳥の身近な観察情報、初認情報などをお待ちしています。

【連絡先】e-mail：mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp

〒270-0127 流山市富士見台1-367-49 若林幹夫

同好会HPの「鳥だより（観察記録）」への投稿も転載します。

次号の「鳥だより」は12月20日までをお願いします。

### 江戸川台地区



ツミ（幼鳥）2024.07.13 森岩



ツミ（幼鳥）2024.07.13 森岩



ツミ（幼鳥）2024.07.16 森岩

### 利根運河地区



ツミ（幼鳥）2024.07.16 森岩



イソシギ 2024.09.12 相馬

### 理窓公園



アライグマ 2024.07.11 相馬

## ◆ 今後の行事予定

### ● 10月有志による個人観察会 松伏 緑の丘公園

日 時：10月6日（第1日曜日） 担 当：相馬  
場 所：松伏 緑の丘公園  
集 合：東武アーバンパークライン江戸川台駅西口広場 千葉銀行付近 8時30分 雨天中止  
観察会終了：11時30分～12時ころ  
持 物：弁当持参  
行先：松伏緑の丘公園 まとまって北側駐車場に向かい駐車します＜駐車代無料＞  
帰行：来た時と同じ車に分乗し、江戸川台駅まで帰ります。  
※申し込み制、車を利用し相乗り方法での「個人観察会」を企画しました。

### ● 10月（第300回）定例観察会

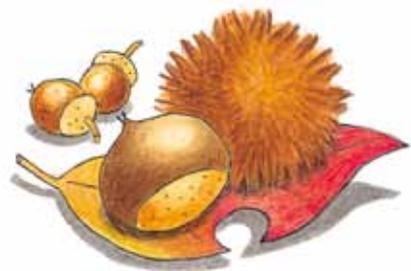
日 時：10月20日（第3日曜日） 担 当：菊池  
場 所：おおたかの森駅「水鳥の池」（入門のんびりバードウォッチング）  
集 合：おおたかの森駅 東武線改札口前 9時 雨天中止  
解 散：12時ころ  
持 物：弁当なし  
※今回は池の周囲からだけでなく、許可を得て池の敷地内にも入れることになっています。  
また10月3～5日に敷地内の草刈りも行われます。20日はベストコンディションですよ！

### ● 11月（第301回）定例観察会

日 時：11月17日（第3日曜日） 担 当：若林  
場 所：利根運河（カモはお任せなのだ！）  
集 合：運河駅 改札口を出て左側「利根運河ギャラリー」 9時 雨天中止  
解 散：12時ころ  
持 物：弁当なし  
どうしてだろう？ ここには「ヒドリガモ」が定着しているのです。

### ● 12月会員限定 水元公園（冬鳥満載！）

日 時：12月15日（第3日曜日） 担 当：菅野  
場 所：水元公園  
集 合：金町駅 改札口前 9時 雨天中止  
解 散：13時ころ  
持 物：弁当持参 市外観察会につき会員参加費200円です  
※ほんとに満載！水元公園は横綱級の探鳥地です。



## ◆ 新入会員の紹介

宮原 誠さん よろしくお願ひします。

## ◆ 令和6年6月30日現在の会員数

単位会員40名＋家族会員21名＝合計61名

---

流山野鳥同好会会報 No. 149 2024年10月10日発行（年4回発行 1月・4月・7月・10月）

発行人 相馬 利雄

連絡先 〒270-0163 千葉県流山市南流山6-27-11 TEL・FAX：04-7159-0972

携帯：070-9082-1239 Mail：t.souma1956@gmail.com

郵便為替口座 加入者名「流山野鳥同好会」口座番号：00130-3-608241

---

★「鳥だより」をお寄せください。

## 流山野鳥同好会会報 『流山とりだより』 寄稿・投稿のお願い

●鳥だよりをお寄せください。

通勤、買い物途中などで見かけた鳥の身近な観察情報、初認情報などをお待ちしています。マイフィールド情報を定期的に送っていただけると、大変貴重な記録となります。

<締切り>

- |       |         |         |          |
|-------|---------|---------|----------|
| ◆4月号  | 3月20日まで | ◆7月号    | 6月20日まで  |
| ◆10月号 | 9月20日まで | ◆次年度1月号 | 12月20日まで |

## 会報『流山とりだより』充実にむけて——会員部からお願い

会員部ファシリテーター 若林幹夫

幹事が中心に執筆してきた会報『流山とりだより』ですが、より多くの会員の方にご寄稿・ご投稿いただき、“みんなで作る会報”にしていきたいと思えます。みなさんのご寄稿・ご投稿をお待ちしています。

◆観察会から……観察会ごとに原則お一人（ご家族などでの執筆もOK）

定例観察会や会員限定観察会のレポートです。「長い文章はちょっと……」という方は、次の事柄のみでもOKです。その他の基本情報や補足情報は幹事が適宜書き加えて仕上げます。

- ・その回の観察会で楽しみにしていたことは？
- ・観察した鳥で印象に残っているのは何？ その鳥のどんなところが印象に残った？
- ・観察会に参加した感想や思ったことは？（楽しかった、暑かった、こんな場所があるなんて知らなかった、コースが短い or 長い、次はどんな場所でどんな鳥が見てみたい、……等々、何でもOK）

上記以外でも観察会に直接・間接にかかわることなら自由にお書きください。長い文章の報告レポートも、もちろん大歓迎です

◆鳥だより——フィールドノート拝見

日々の鳥の観察記録です。観察した月日、場所、鳥の種類、観察した方のお名前をお寄せください。同好会ホームページの「鳥だより（フィールドノート）」に投稿いただいても、若林宛にメールでお送りいただいてもOKです。会報発行の前月（3月、6月、8月、12月）の20日頃までのものをまとめて掲載します。

◆探鳥レポート、フィールドの紹介、図鑑や図書の紹介、鳥についての思い出、等々こうした文章もお待ちしています。

若林幹夫：mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49  
ホームページと会報の連携も今後考えていきます。よろしくお願いたします。

